

横田、周辺地域の友好クラブとの結束を祝し、2023年を振り返る *Yokota celebrates unity, reflects on 2023 with Friendship Clubs of surrounding communities*

January 30, 2024

By Senior Airman Manuel G. Zamora
374th Airlift Wing Public Affairs

1月20日、横田基地主催による横田友好クラブの新年会が下士官クラブで開催され、参加者は友情と結束を育み、新年を祝した。

横田基地と最初に協定を結んだ友好団体である福生・横田交流クラブは、在日米軍を労いたいという地元地域のリーダーたちの思いから1989年に設立された。その後、時を経て、福生市、あきる野市、瑞穂町、羽村市、武蔵村山市、昭島市、青梅市の自治体からなる7つの友好クラブへと発展した。

あきる野横田交流クラブの天野正昭会長は、「第374空輸航空団と各友好クラブの皆様、明けましておめでとうございます。地元地域において、今年も日米の友好関係を育み、強化して参りたいと思います」と述べた。

開宴に先立ち、横田基地の儀仗隊による日米両国の国旗掲揚と両国歌の演奏が行われた。そして、各クラブの会長が挨拶し、横田基地と周辺地域との関係の重要性を強調し、2023年を振り返った。

各クラブの会長はそれぞれに、このほど日本で発生した惨事に遭われた被災者と家族に対し、お見舞いの言葉を述べた。

あきる野市の中嶋博幸市長は、「石川県能登半島地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、昨年のCV-22の事故で亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます」と哀悼の意を表し、「末永く友好関係の維持にご尽力いただいている在日米軍の皆さまに感謝申し上げます」と挨拶した。

新年会は、幸せと繁栄を願う鏡開きと乾杯で締めくくられた。

こうしたイベントは、文化交流の素晴らしさを体現し、持続的なパートナーシップを構築する。

第374空輸航空団司令官アンドリュー・ラダン大佐は、「今日のイベントは、異文化間の相互理解を深める数ある行事のひとつに過ぎません。改めて申し添えますが、横田基地のミッションは周辺のコミュニティーの支援と協力なしには成功しえません。皆さんも私たちも、互いにコミュニティーの一員なのです」と述べた。

